近藤　博明（宇佐市猿渡）

【経営の概要】

経営形態	家族経営（認定農業者）
モデルの種類	平地モデル
就農時期	平成１２年
労働力	基幹１名　、補助２名　、雇用１名

【経営規模(ha)】

	経営面積	水　稲	麦　類	大　豆	作業受託
平成19年	１９	１３	１１	3	延べ　２５
平成20年	２０	１３	１１	3	延べ　１００
平成21年	２０	１４	１２	6	延べ　１００

【機械装備】

トラクター	３台	溝上げ機	１台
コンバイン	１台	播種機	１台
田植機	１台	乾燥機	６台
ﾌﾞｰﾑｽﾌﾟﾚｲﾔｰ	１台	トラック	１台
ブロードキャスター	１台	フォークリフト	１台

【経営の特徴】

米・麦・大豆を中心とした農業経営を行っている。
親の経営を引継ぎ就農して７年になるが、丁寧な耕作を行うことで経営規模を順調に拡大しており、土地利用型農業の地域の担い手である。

【導入した新技術】

◎乗用管理機使用技術（水稲、麦、大豆）

（手法）
ブームスプレイヤーを水稲、麦、大豆のすべての作物で活用し、除草剤散布（麦、大豆、玉ねぎ）、病害虫防除（水稲、麦、大豆、玉ねぎ）を行うことでコスト低減、省力化を図る。

（結果）
水稲、麦、大豆の防除において低コスト化、省力化が図られた。

（留意点）
病害虫の発生状況はほ場により差があり、発生状況を観察しながら適期防除を行うことに留意する。

◎土壌分析に基づく土づくり資材の投入（麦）

（手法）

麦の生産安定と生産コストの低減を図るため、土壌分析を行うことで、効率的な施肥、土壌改良資材の投入を図った。

（結果）

生育不良なほ場を中心に土壌改良資材を投入し、麦単収の向上が図られた。

（留意点）

単年度で土壌改良がされるわけではないので、継続的な土壌改良資材の投入とともに堆肥など有機物の投入などを行う必要があるので留意する。

◎一条畦立て栽培技術（大豆）

（手法）

大豆栽培における播種作業で、ちかのりクン、簡易培土板を活用し、畦立て同時播種作業を行うことで、出芽、苗立ちの安定化を図った。

（結果）

発芽率、苗立ちが畦立てしない播種に比較して向上した。

（留意点）

播種作業時の土壌水分が高いときは、播種精度が著しく低下することから上記技術を活用しても出芽が安定しないことがあるので留意する。

◎その他特徴的な取組

・乗用管理機防除技術において農薬低減ノズルによる防除効果の確認を行った。

◎主な波及活動

・乗用管理機技術の技術成果を公表することで米麦大豆での病害虫・雑草防除への活用が広がった。
・一条畦立て栽培技術の情報提供を行ったことで管内での活用が広がった。
・当モデル経営体の行った作業体系や労働時間など情報を参考として、土地利用型農業の県経営指標のモデル指標を作成することができた。

【経営状況】

（10aあたり）

	労働時間（県平均比）	全算入生産費（県平均比）	所得
経営全体	15.2hr（82%）	6.2万円（124%）	2.4万円
水　稲	21.7hr	8.1万円	
麦	12.0hr	4.6万円	
大　豆	6.5hr	5.0万円	